

外来語に関する基礎的研究 (XII)

— “女性”にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法 —

A Study of Loanwords in Japanese(XII)

— The Usage of Na Adjectives which Belong to the Meaning Distribution Area of ‘Female’ —

戸田利彦

Toshihiko TODA

In the last paper, 15 Japanese adjectives (1 *na* adjective loanword, 7 pure Japanese adjectives and 7 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘male’, based on Ruigo Kokugo Jiten, were analyzed from three points of view.

In this paper, 15 Japanese adjectives (1 *na* adjective loanword, 11 pure Japanese adjectives and 3 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘female’, based on Ruigo Kokugo Jiten, are analyzed from the following points of view:

- 1: objects (67 items) divided into physical or mental characteristics, things and events of adjectives.
- 2: attributes (36 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives.
- 3: phase and style (10 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives.

Through the above analysis, usages of *na* adjective loanwords (mainly the usage of ‘feminin (feminine)’) are summarized. One of the most important usages of ‘feminin (feminine)’ is that it is used in special scenes of life to express the female refined and attractive appearance.

I. 研究の目的と方法

外来系「な」形容詞^{注1)}の研究の視点としては、以下のものが考えられる。①実際に使用されているものの収集・整理、②使用実態の調査・分析、③意味領域及びその分布の分析、④各意味領域の内実の分析、⑤語義及びその原義との違いの分析・記述、⑥語種を異にする類義語間の語義及び位相・文体の違いの分析・記述、⑦基本度の設定

本稿では、④及び⑥の視点から、“姿態”の中の“女性”にかかわる外来系「な」形容詞を〈対象〉〈属性〉〈位相・文体〉の観点から“女性”にかかわる和語・漢語の類義語と比較しながら分析し、「フェミニンな」を中心に意味用法を記述することを目的とする。

II. 分析の対象と観点

(1) 分析の対象

【類語国語辞典】(大野晋/浜西正人著 角川書店1985)の語彙分類体系表に基づき、使用比率^{注2)}によって10段階に分けられた308語の「な」形容詞の意味領域を調査した結果、小分類意味領域(1000項目)の1つである“男性的(男らしくて雄々しい)”の意味領域の中の“女性的(女らしくしとやかである)”の意味領域には、「フェミニンな」の1例が属することがわかった^{注3)}。そこで「フェミニンな」を外来系「な」形容詞として取り上げることにした。また、上述の辞典の“女性的”の意味領域に掲載されている9例のうち、「女らしい」「女っぽい」「女性的」「たおやかな」「しなやかな」「女々しい」の6例を選び、さらに「女くさい」「しとやかな」「なよやかな」「かよわい」「すてきな」「優

しい」「優雅な」「上品な」の8例を考察対象に加え、計14例(和語11例、漢語3例)を取り上げた。

以上15例の“女性”にかかわる語を比較対照しながら、「フェミニンな」の意味用法を分析することにした。

(2) 分析の観点

“女性”にかかわる形容詞(形容動詞を含む)を分析するにあたって、まず、個々の語の〈語種〉〈ランク〉及び〈タイプ〉を調査した。その上で、〈対象〉〈属性〉〈位相・文体〉の観点から分析を行なった。以下、調査項目及び分析の観点の内実を示しておく。

〈語種〉

考察対象として取り上げた15例の“女性”にかかわる語の選定の経緯をふまえた上で、語種面からの数量的バランスについて調査した。

〈ランク〉

使用比率によって10段階に分けたランクについて個々の外来系「な」形容詞ごとに調査した^{注4)}。

〈タイプ〉

形容詞・形容動詞は、終止形、連体形、連用形で文に現れるが、これら3種の用法が全て可能か否かは個々の語によって異なる。そこで、形容詞・形容動詞を用法別に以下の6つのタイプに分類し、タイプを個々の語ごとに調査した。

タイプ \ 用法	I	II	III	IV	V	VI
終止用法	+	+	+	-	-	-
連体用法	+	+	-	+	+	-
連用用法	+	-	-	+	-	+

〈X：対象〉

A：〈人〉

a：性 1：〈男性〉 2：〈女性〉

(それぞれについて使えるか)

b：年齢 1：0～9歳 2：10～19歳
 3：20～29歳 4：30～39歳
 5：40～49歳 6：50～59歳
 7：60～69歳 8：70～79歳
 9：80歳以上

(それぞれの年齢層で使えるか)

c：身体 1：体(つき) 2：髪 3：頭
 4：顔 5：額 6：眉
 7：眉毛 8：目(もと) 9：目尻

- 10：耳(もと) 11：耳たぶ 12：鼻
- 13：頬(えくぼ) 14：口(もと) 15：唇
- 16：舌 17：あご 18：首
- 19：肩(かた) 20：のど 21：肩
- 22：腕 23：手 24：指
- 25：爪 26：胸 27：腹
- 28：へそ 29：腰 30：尻
- 31：もも 32：太もも 33：脚
- 34：ひざ 35：すね 36：ふくらはぎ
- 37：足 38：足首 39：かかと
- 40：顔(かほ) 41：容姿 42：顔(かほ)
- 43：声 44：しぐさ 45：態度・動作
- 46：行為・体験 47：思考・想像・記憶

(これらの語を対象とするか)

d：装い 1：服装・身なり 2：着こなし
 3：髪型

(これらの語を対象とするか)

e：精神 1：気持ち・気分 2：心
 3：性格 4：人格

(これらの語を対象とするか)

B：〈もの〉

(人間に直接かかわらない“もの”を対象とするか)

C：〈こと〉

(人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かかわるものや事柄を指したりしない抽象名詞や事柄を対象とするか)

以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。

○：一般的に対象とする

△：対象としえなくもないが必ずしも一般的でない

×：対象としえない

〈Y：属性〉

A：〈人〉

a：評価 1：〈主観性〉(主観的な評価であるか)
 2：〈客観性〉(客観的な評価であるか)
 b：内実 1：〈官能性〉(性的なあやしさを示すか)
 2：〈繊細性〉(こわれやすい繊細さを示すか)
 3：〈神聖性〉(厳かさを示すか)
 4：〈洗練性〉(無駄の無さを示すか)
 5：〈高尚性〉(知性の高さを示すか)
 6：〈男性性〉(男らしさを示すか)
 7：〈女性性〉(女らしさを示すか)

- 8 : <意図性> (意志や意図を示すか)
- 9 : <内面性> (内面的な奥深さを示すか)
- 10 : <傾斜性> (心が歪かれていることを示すか)
- 11 : <虚弱性> (肉体的な弱さを示すか)
- 12 : <安定性> (穏やかな落ち着きを示すか)
- 13 : <現代性> (現代的な斬新さを示すか)
- 14 : <伝統性> (古風さを示すか)
- c : 感覚 1 : <視覚性> 2 : <聴覚性>
3 : <触覚性>
(それぞれの感覚を示すか)
- d : 時間 1 : <一時性>
(<人>の精神を対象とし、一時的な気持ちや感情を示すか)
2 : <持続性>
(<人>の精神を対象とし、一定期間持続する心や性格を示すか)
- B : <もの>
a : 評価 1 : <主観性> 2 : <客観性>
b : 内実 1 : <神聖性> 2 : <洗練性>
3 : <高尚性> 4 : <傾斜性>
5 : <虚弱性> 6 : <安定性>
7 : <現代性> 8 : <伝統性>
c : 感覚 1 : <視覚性> 2 : <聴覚性>
3 : <嗅覚性> 4 : <味覚性>
5 : <触覚性>

- 以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。
 ○ : その属性が明確に認められる
 △ : その属性がある程度認められる
 × : その属性がほとんどもしくは全く認められない
 <Z : 位相・文体>
 A : <人> 1 : <談話性>
(会話の中で話し言葉としてよく使われるか)
2 : <文章性>
(文章の中で書き言葉としてよく使われるか)
3 : <雅語性>
(美意識に基づく優雅な言葉として使われるか)
4 : <俗語性>
(くだけた世俗的なニュアンスを持つ言葉として使われるか)
5 : <日常性>
(日常生活の中で普通によく使われるか)
 B : <もの> 1 : <談話性> 2 : <文章性>
3 : <雅語性> 4 : <俗語性>
5 : <日常性>

以上の観点に関して、その特徴が認められるか否かを [Y : <属性>] と同じ記号を用いて分析した。

III. 分析の結果

以上の調査及び分析の結果を、以下の表にまとめて示した。

分析の観点		語種		和語										漢語				
		ランク		形容詞										漢語				
		D		フェミニンな	女らしい	女っぽい	女くさい	女々しい	たおやかな	しとやかな	なよやかな	しなやかな	かよわい	すてきな	優しい	女性的な	優雅な	上品な
		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
X 対象	A (人)	a 性	1 <男性>	×	×	△	×	○	×	×	×	△	△	△	△	△	△	△
		2 <女性>	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	△
	b 年齢	1 0~9歳	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	○	○	○	×	×	○
		2 10~19歳	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△
		3 20~29歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		4 30~39歳	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○
		5 40~49歳	×	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	○	○	○	○	○
		6 50~59歳	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○
		7 60~69歳	×	○	○	○	○	○	△	△	×	×	○	○	○	○	○	○
		8 70~79歳	×	○	△	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○
		9 80歳以上	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○
	c 身体	1 体 (つき)	×	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	×
		2 髪	×	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		3 髪	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		4 顔	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		5 額	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		6 眉	×	△	△	×	×	×	○	×	×	×	×	○	△	○	×	○

分析の観点		語種		和語										漢語						
		ランク		和語										漢語						
		タイプ		外来語	フェミニンな	女らしい	女っぽい	女くさい	女々しい	たおやかな	しとやかな	なよやかな	しなやかな	かわいい	すてきな	優しい	女性的な	優雅な	上品な	
			I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I			
Y: 属性	A: (人)	b: 内実	8	<意図性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
			9	<内面性>	×	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
			10	<傾斜性>	○	○	△	×	×	×	○	○	×	△	×	○	△	×	×	×
			11	<虚弱性>	×	×	×	×	△	△	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
			12	<安定性>	×	△	×	×	×	△	△	○	×	×	×	×	×	×	×	×
			13	<現代性>	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×
		14	<伝統性>	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	
		c: 感覚	1	<視覚性>	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			2	<聴覚性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			3	<触覚性>	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			d: 時間評価	1	<一時性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		2		<持続性>	/	○	/	/	/	/	/	/	/	△	/	○	△	/	△	
		B: (もの)	b: 内実	1	<主観性>	/	/	/	/	/	/	/	/	△	△	△	△	△	△	△
				2	<客観性>	/	/	/	/	/	/	/	/	△	△	△	△	△	△	△
	1			<繊細性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	
	2			<神聖性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	
	3			<洗練性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	△	×	×	×	×	×	
	4			<高尚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	
	5			<傾斜性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	
	6			<安定性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	
7	<現代性>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×			
8	<伝統性>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×			
c: 感覚	1		<視覚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	○	○	○	○	○		
	2		<聴覚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
	3		<嗅覚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
	4		<味覚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
	5		<触覚性>	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	○	○	○	○	○		
	Z: 位相・文体		A: (人)	1	<談話性>	△	△	△	△	△	×	△	×	△	△	△	△	×	△	△
		2		<文章性>	△	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	
		3		<雅語性>	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
4		<俗語性>		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
5		<日常性>		×	△	○	△	△	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△		
B: (もの)		1	<談話性>	/	/	/	/	/	/	/	/	△	△	△	△	×	△	△		
		2	<文章性>	/	/	/	/	/	/	/	/	△	△	△	△	×	△	△		
		3	<雅語性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
		4	<俗語性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
		5	<日常性>	/	/	/	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×		

IV. 結果の考察

まず、〈語種〉、〈ランク〉、〈タイプ〉について考察しておく。

〈語種〉

【類語国語辞典】には、いわゆる形容詞・形容動詞として和語が6例、漢語が1例掲載されている。「フェミニンな」との類義性の考察に主眼を置く場合、和語の「女だてら」は他の例に比して語義的にやや離れていると判断して分析の対象から外した。

新たに付加した6例（「女くさい」「しとやかな」「たおやかな」「かわいい」「すてきな」「優しい」）の

和語、2例（「優雅な」「上品な」）の漢語を含めて、結果として“女性”にかかわる語として、15例を取り上げることになったが、数量的にみる限り、語種の面では和語の比率が非常に高く、一方で、漢語、外来語の占める割合がかなり低い点の特徴である。

〈ランク〉

「フェミニンな」の使用比率ランクはDである。この語は、使用比率はかなり低いことを確認しておきたい。

〈タイプ〉

〈タイプ〉については、対象としたすべての例が、終止、連体、連用の各用法が可能であるタイプのI

である。以下、それぞれの連用用法の用例を示しておく。「フェミニンに装う」「女らしく振る舞う」「女っぽく振る舞う」「女くさく感じる」「女々しく感じる」「たおやかに感じる」「しとやかに振る舞う」「なよやかに感じる」「しなやかに感じる」「かよわく感じる」「すてきに見える」「優しく振る舞う」「女性的に感じる」「優美に装う」「上品に振る舞う」以上の結果をふまえた上で、観点別に分析結果を考察しておく。

まず、X：対象についてみておく。

(A：〈人〉)

a：性

〈男性〉〈女性〉の区別なく使用されるものに「すてきな」「優しい」「女性的な」「上品な」の4例がある。〈男性〉に用いることも全くないわけではないが、ほとんど〈女性〉に用いるものに「女っぽい」「しなやかな」「かよわい」「優美な」の4例がある。また、〈女性〉のみに用いるものに「フェミニンな」の他に「女らしい」「女くさい」「たおやかな」「しとやかな」「なよやかな」の5例があるが、この点は“女性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）の特徴にあげられよう。

「フェミニンな」は〈女性〉のみに用いられる点において「女らしい」「女くさい」「たおやかな」「しとやかな」「なよやかな」と共通点を持つと言える。

b：年齢

年齢的に制約があるものとなないものに大別する方法を取る場合^{注5)}、「フェミニンな」「女らしい」「女っぽい」「女くさい」「女々しい」「たおやかな」「しとやかな」「なよやかな」「しなやかな」「女性的な」「優美な」の11例は制約があることになる。また、年齢的に制約があるものを

- ①一定の年齢以上で主として用いられるもの
- ②一定の年齢未満で主として用いられるもの
- ③一定の年齢枠の中で主として用いられるものの三つに分類する方法をとる場合、「女らしい」「女くさい」「女々しい」「女性的な」「優美な」は①に、「なよやかな」「しなやかな」は②に、「フェミニンな」「女っぽい」「たおやかな」「しとやかな」は③に属することになる。これは、①に属

するものが、身体的あるいは精神的成長、②に属するものが、心身共に生き生きとした若い女性の柔軟さや新鮮さ、また、③に属するものが、心身の成熟と落ち着きを前提にしていることによる。

「フェミニンな」は、年齢の面では、若い大人の女性という比較的限定された年齢層を対象とする点において、“女性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）の中で特異性を持つと言える。

c：身体

この観点に関しては、

- ① 1 体（つき）、
- ② 2 髪 ～ 39 かかと・きびす、
- ③ 40 容貌・顔立ち、41 容姿、
- ④ 42 表情・目つき ～ 44 しぐさ、
- ⑤ 45 態度・動作、46 行為・体験、
- ⑥ 47 思考・想像・記憶、

の六つに分けて考察しておく。

- ① 1 体（つき）

“体（つき）”は、“肉体としての体全体”のことであるが、これを対象とするものに「女らしい」「女っぽい」「たおやかな」「なよやかな」「しなやかな」「かよわい」「すてきな」「女性的な」の8例がある。

- ② 2 髪 ～ 39 かかと・きびす

ここでは4例以上に○がつくものについて考察しておく。“体”を構成する部分の中で“顔”を対象とするものに「女らしい」「女っぽい」「たおやかな」「すてきな」「優しい」「上品な」の6例がある。“眉”を対象とするものに「たおやかな」「すてきな」「女性的な」「上品な」の4例がある。“眉毛”も同様である。“首すじ・うなじ”を対象とするものに「女らしい」「女っぽい」「たおやかな」「すてきな」「女性的な」の5例がある。“肩”を対象とするものに「たおやかな」「なよやかな」「かよわい」「すてきな」「女性的な」の5例がある。“腕”も同様である。“指”を対象とするものに「女らしい」「女っぽい」「たおやかな」「しなやかな」「すてきな」「女性的な」の6例がある。“胸”“腰”“尻”を対象とするものは、「しなやかな」以外の5例は“指”と同様である。“女性”にかかわる語は、「女

らしい」「女っぽい」「たおやかな」「すてきな」「女性的な」以外は、総じて“体”を構成する部分は対象としない。「フェミニンな」は、“体”を構成する部分を対象としない点で「女くさい」「女々しい」「しとやかな」「優雅な」と似ている。

③ 40 容貌・顔立ち 41 容姿

“容貌・顔立ち”は、部分的要素を含めた顔全体の形や様子を、“容姿”は顔立ちと体つきを含めた体全体の形や様子であり、いずれも総合的な姿や様子を示す。両者を共通に対象とするものに「フェミニンな」「女っぽい」「たおやかな」「しとやかな」「すてきな」「女性的な」「上品な」の7例がある。前者のみのものに「優しい」の1例がある。後者のみのものに「フェミニンな」の1例がある。15例中の9例が対象とする点において、“容貌・顔立ち”“容姿”は、“c:身体”の中では、それを対象とするかなり層の厚い語群を有していると言える。「フェミニンな」は、“容貌・顔立ち”を対象とせず、“容姿”を対象とする点が特徴的である。

④ 42 表情・目つき ~ 44 しぐさ

“表情”は顔による、“声”は音声器官による、“しぐさ”は身体の部分による動きを含む様子であり、いずれも一種の身体表現である。三者を共通に対象とするものに「しなやかな」「すてきな」「優しい」の3例がある。「フェミニンな」は、“表情・目つき”“声”“しぐさ”の三者を共に対象としない点で「女々しい」「なよやかな」「かよわい」と似ている。

⑤ 45 態度・動作, 46 行為・体験

“しぐさ”より広範な動きを含む様子を“態度・動作”とし、それを一般化したものを“行為・体験”とした。両者共に対象とするものに、「女らしい」「女っぽい」「女くさい」などの9例が、“態度・動作”のみを対象とするものに、「しなやかな」「上品な」の2例がある。「フェミニンな」は“態度・動作”“行為・体験”を共に対象としない点の特徴的である

⑥ 47 思考・想像・記憶

“思考・想像・記憶”は、人間の頭脳による能動的な活動であり、“行為・体験”に隣接するものであるが、これを対象とするものに、「女らしい」「女っぽい」「女くさい」「女々しい」「すてきな」「優しい」「女性的な」の7例がある。「フェミニンな」は“思考・想像・記憶”を対象としない。

d: 装い^{注6)}

1 服装・身なり

身に付けた衣服の様や衣服を着た姿を“服装・身なり”としたが、「女らしい」「女っぽい」「たおやかな」など9例がこれを対象とする。

2 着こなし

衣服の身に付け方を“着こなし”としたが、“服装・身なり”と同じ(○△の違いはあるが)結果である。

3 髪型

“髪”が体の一部であるのに対して、“髪型”はファッションともいべき装いであるが、これは、“服装・身なり”と同じ(○×も同じである)結果である。

e: 精神

1 気持ち・気分

その場における一時的な心の状態、すなわち感情を“気持ち・気分”として取り上げたが、これを対象とするものは「すてきな」「優しい」「優雅な」の3例である。

2 心

必ずしも一時的ではない心のあり様、すなわち情意を中心とした精神活動を“心”として取り上げたが、これを対象とするものは「女らしい」「しなやかな」「優しい」「優雅な」の4例である。身体の様子に関する‘優美さ’や‘柔らかさ’を‘優しさ’や‘思いやり’として“心”にも適用したものと云えよう。

3 性格

人間の持続的な性向を“性格”として取り上げたが、これを対象とするものは「女らしい」「女っぽい」「優しい」「女性的な」「上品な」の5例である。

4 人格

人間の持続的な品格を“人格”として取り上げたが、これを対象とするものは、「女らしい」「優しい」の2例である。

「フェミニンな」をはじめとして“女性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）は、「女らしい」「優しい」の2例を除いて、人間の内面に深く関与する語を対象としえない。

[B：〈もの〉]

人間に直接かかわらないものを“もの”としたが、○、すなわち‘一般的に対象としうる’ものとして、「はなやかな」「かawaii」「すてきな」「女性的な」「上品な」の5例がある。

「フェミニンな」は“もの”を対象としえない。

[C：〈こと〉]

人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かかわるものや事柄を指したりしない、抽象名詞や事柄を“こと”としたが、△、すなわち‘対象としえなくもないが必ずしも一般的でない’ものとして「しなやかな」「すてきな」の2例がある。

「フェミニンな」は“こと”を対象としえない。

次に、Y：属性についてみておく。

[A：〈人〉]

a：評価

15例のすべてが、〈主観性〉〈客観性〉がいずれも△、つまり明確にどちらがあるとも言えないものである。

b：内実

1 〈官能性〉

〈官能性〉すなわち“性的なあやしさ”が‘ある程度認められる’ものに「たおやかな」の1例がある。これらは、内実として“どことなく漂う色気”を有している。

2 〈繊細性〉

〈繊細性〉すなわち“こわれやすい繊細さ”が‘明快に認められる’ものに「フェミニンな」「たおやかな」の2例が、また、‘ある程度認められる’ものに「女らしい」「女っぽい」「しとやかな」などの6例がある。

3 〈神聖性〉

〈神聖性〉すなわち“厳かさ”が‘明確に認められる’ものに「上品な」の1例がある。

4 〈洗練性〉

〈洗練性〉すなわち“無駄の無さ”が‘明確に認められる’ものに「フェミニンな」「たおやかな」の2例が、また、‘ある程度認められる’ものに「しとやかな」「しなやかな」「すてきな」などの5例がある。

5 〈高尚性〉

〈高尚性〉すなわち“知性の高さ”が‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「たおやかな」「すてきな」などの5例がある。

6 〈男性性〉

〈男性性〉すなわち“男らしさ”が認められるものはない。

7 〈女性性〉

〈女性性〉すなわち“女らしさ”が‘明確に認められる’ものに「フェミニンな」「女らしい」「女っぽい」などの8例が、また、‘ある程度認められる’ものに「女々しい」「かawaii」「すてきな」などの4例がある。これらは“優美さ、柔らかさ、優しさ、思いやりなどの女らしさ”を示している。

8 〈意図性〉

〈意図性〉すなわち“意志や意図”が認められるものはない。

9 〈内面性〉

〈内面性〉すなわち“内面的な奥深さ”が‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「女らしい」「しとやかな」などの4例がある。

10 〈傾斜性〉

〈傾斜性〉すなわち“心が惹かれていること”が‘明確に認められる’ものに「フェミニンな」「女らしい」「たおやかな」などの6例が、また、‘ある程度認められる’ものに「女っぽい」「しなやかな」「優美な」の3例がある。

11 〈虚弱性〉

〈虚弱性〉すなわち“肉体的な弱さ”が‘明確に認められる’ものに「なよやかな」「かawaii」の2例が、また、‘ある程度認められる’ものに「女々しい」「たおやかな」の2例がある。

12 〈安定性〉

〈安定性〉すなわち“穏やかな落ち着き”が‘明確に認められる’ものに「しとやかな」の1例が、また、‘ある程度認められる’ものに

「フェミニンな」「女らしい」「たおやかな」などの4例がある。

13 <現代性>

<現代性>すなわち“現代的な斬新さ”が‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「しなやかな」「すてきな」の3例がある。

14 <伝統性>

<伝統性>すなわち“古風さ”が‘ある程度認められる’ものに「しとやかな」の1例がある。

c: 感覚

1 <視覚性>

<視覚性>は全15例に明確に認められる。

2 <聴覚性>

<聴覚性>, 具体的には“人間の声”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「すてきな」「優しい」「上品な」の3例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「女っぽい」「しとやかな」「女性的な」の3例がある。

3 <触覚性>

<触覚性>, 具体的には“もの手ざわり”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「なよやかな」「しなやかな」「すてきな」の3例がある。

d: 時間

1 <一時性>

<一時性>すなわち“人間の一時的な気持ちや感情”であることが認められるものに「すてきな」「優しい」「優雅な」の3例がある。“女性”にかかわるいわゆる形容詞(形容動詞を含む)は, “気持ち”や“感情”などは比較的对象としにくいと言えよう。

2 <持続性>

<持続性>すなわち“人間の一定期間持続する心や性格”であることが‘明確に認められる’ものに「女らしい」「女っぽい」「優しい」の3例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「しなやかな」「女性的な」「優雅な」「上品な」の4例がある。“女性”にかかわるいわゆる形容詞(形容動詞を含む)は, “外面的な女らしさ”と共に, “人間の一定期間持続する心や性格”という“内面的な女らしさ”までを対象とするものが一定数ある点特徴的である。

[B: <もの>]

a: 評価

<主観性><客観性>に関しては[A: <人>]と同様である。

b: 内実

<繊細性><神聖性><洗練性><高尚性><傾斜性><安定性><現代性><伝統性>に関しては[A: <人>]と同様である。

c: 感覚

<視覚性><聴覚性>^{注7)}<触覚性>に関しては[A: <人>]と同様である。

3 <嗅覚性>

<嗅覚性>, 具体的には“ものの匂い”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

4 <味覚性>

<味覚性>, 具体的には“ものの味”に対する感覚が‘ある程度認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

次に, Z: 位相・文体についてみておく。

[A: <人>]

1 <談話性>

<談話性>が‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「女らしい」「女っぽい」などの12例がある。

2 <文章性>

<文章性>が‘明確に認められる’ものに「たおやかな」「なよやかな」「すてきな」の3例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「女らしい」「女っぽい」などの12例がある。

3 <雅語性>

<雅語性>が‘ある程度認められる’ものに「フェミニンな」「たおやかな」「なよやかな」「すてきな」の4例がある。

4 <俗語性>

<俗語性>が認められるものはない。

5 <日常性>

<日常性>が‘明確に認められる’ものに「女っぽい」の1例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「女らしい」「女くさい」「女々しい」などの9例がある。

[B: <もの>]

<談話性><文章性><雅語性><俗語性><日常性>
 に関しては[A: <人>]と同様である。

最後に本稿のまとめとして、「フェミニンな」の意味用法について記しておく。

①「フェミニンな」は、若い大人の女性を対象とし、主としてその服装・身なり・着こなしなどの‘装い’が細やかに洗練されている様子を表す。また、‘装い’以外に容姿を対象とすることもある。②プラスイメージの語である。③①の外面的なイメージから、若い大人の女性の心身の優しさや優美さを暗示する場合がある。また、①のような様子に対して使用者が心惹かれることを暗示している。④青年期の‘知性の高さ’‘内面の奥深さ’‘落ち着き’‘現代的な斬新さ’などを内包している。⑤「女らしい」「女っぽい」は比較的類義性の高い語であるが、対象年齢の他に、「フェミニンな」が、少なくとも身体の部分や精神を対象としない点で異なる。また、「しとやかな」も比較的類義性の高い語であるが、「しとやかな」が比較的広い年齢層の大人の女性の古風さを内包しているのに対し、「フェミニンな」が若い大人の女性の現代的な斬新さを内包している点で異なる。⑥会話や文章のいずれの中でも美意識に基づく比較的優雅な言葉として使われる。⑦日常生活の場面ではほとんど使われず、装いに関する会話やファッション関係の書籍の中など特殊な場面で稀に使われる。⑧終止、連体、連用の各用法が可能である。⑨“女性”にかかわる類義語間で、特異な位置を占めている。

今後は、“女性”以外の“姿態”にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法の記述及びそれらと語種を異にする類義語間の語義、位相・文体の分析・記述を行いたい。

[注]

- 1) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅱ) — 「な」形容詞の語形を中心に —」, 『比治山女子短期大学紀要』第29号, 1994, P. 54.
- 2) 「話すとき使う」とした人数の全体に占める割合、すなわち使用人数の比率を、使用比率と略記する。
- 3) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(V) — 外来系「な」形容詞の意味分布について —」, 『比治山大学現代文化学部紀要』第3号, 1996, P. 19.
- 4) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅲ) — 話しことばにおける「な」形容詞の使用実態 —」, 『比治山大学現代文化学部紀要』創刊号, 1994, 「外来語に関する基礎的研究(Ⅳ) — 外来系「な」形容詞の使用比率 —」, 『同上紀要』第2号, 1995, の調査結果に基づく。使用比率ランクは、「話すとき使う」とした人数の割合による以下の基準(%)で、10段階を設定した。④(100~91) A(90~81) ⑤(80~71) B(70~61) ⑥(60~51) C(50~41) ⑦(40~31) D(30~21) ⑧(20~11) E(10~0)
- 5) △または×を含むものを“年齢的に制約があるもの”, 全て○ばかりのものを“年齢的に制約のないもの”とした。
- 6) “服装”“身なり”などは、“人間に直接かかわるもの”として“[A: <人>]”の中で扱った。
- 7) 具体的には“ものの音”に対する感覚であるが、該当する3例は単なる“物音”ではなく、ある程度意図的に創り出された“音”に対する感覚を有する語群である。

<キーワード>

外来系「な」形容詞／女性／対象／属性／位相・文体
 戸田 利彦 (言語文化学科日本語文化専攻)

(2003. 11. 4 受理)